

第 11 回『びほろ』みらいまちづくり会議 ワークショップ結果

【総務部会】

テーマ①：重点プロジェクトの内容について

〈良い点〉

- ・広報の連載などで総合計画策定の途中経過を掲載して、町民に伝えられるというような下地はできた。
- ・内容②の表現は良いと思う。
- ・参加したくなるまちづくり。
- ・災害だけではない『安心して暮らせる生活環境』

〈悪い点〉

- ・防災において、二次元コードでの周知は難しい、もっとアナログな方法で。
- ・ふるさと納税担当部署などの創設をお知らせできていない。
- ・広報のデジタル化もいいけど、アナログに慣れている人もいるので、その差を考えるべきでは。
- ・「町民が参加しやすくなる」という表現が必要では？
- ・固定電話から携帯電話へ変わってきたので、緩やかなデジタル化という表現いいのでは？
- ・情報発信について、HP、広報だけではなくて、役場にきた時に今こういうことをやっているということがわかるようにしてはいいのでは？
- ・デジタル化だけではなく、アナログを併用するという文言を入れてみては？
- ・町民から行政へはあるけど、行政から町民への情報伝達が足りていないのでは？地域サポーター制度の活用などは？顔の見える行政を。
- ・ふるさと納税の向上だけではなく、使途のPRもしては？
- ・DXにより可能となった時間、人的要素を何に充てるのかがわからない。
- ・DXによって顔の見える行政（緊急通報装置のことについて）

テーマ②：重点プロジェクトの推進に向けたアクション

- ・音頭を取れる人づくり
- ・新たな気軽に行けるコミュニティの場を作っていくこと。
- ・コミュニティの場を固定しないで、トイレなど、モバイルで移動できる方法として集まる場を作ること。美幌町活力共創事業補助金を活用して。
- ・美幌在住の隊員へのアンケートがすぐできる。
- ・防災イベントなどの行事で体験して、そのまま防災に活かしてもらう。
- ・テーマを決めたイベントで、参加しやすいように音楽を用いてやると人が集まる。
- ・イベントの積極的な周知を、町民に届くように
- ・デジタル技術の草の根的な浸透

【町民生活部会】

テーマ①：重点プロジェクトの内容について

〈良い点〉

- ・ゆるやかなつながり（自治会など強制されると嫌。無理なく、ライフスタイルに合わせて参加したい）
- ・アナログとデジタルの連携
- ・防犯、交通安全は今のままで十分やっている
- ・誰もが孤立せず
- ・安心して移動できる
- ・安心して暮らし続ける支え合いの仕組みづくり
- ・人と人とのつながりや既存の仕組み
- ・未来を担う子供たちが健やかに育つ安全な地域環境

〈悪い点〉

- ・5年生～高校生の放課後の居場所がない（例：旭小の子が児童センターに行くにも遠い、等）
⇒各方面に拠点となる場がほしい、また、そのための移動手段も
- ・「ゆるやかなつながり」でいざというときに頼れる共助の土壌ができるのか（災害時等、どこに誰がいるのか把握できる？）
- ・自治会組織の強化⇒行政は自治会活動に何を求めるのか
- ・自治会活動の推進⇒ゴミステーション化に戻すなどで自治会加入を促す
- ・「世代を超える」というような趣旨がほしい
- ・自治会加入者、不加入者への情報の伝え方
- ・安心して移動できる足の確保（もーびーの利便性）
- ・地域の総がかり⇒高齢になると動けない、？
- ・実行可能？

テーマ②：重点プロジェクトの推進に向けたアクション

- ・スクエアタウン構想
- ・有償ボランティア（自治会活動）
- ・自治会に加入すること

〈その他〉

- ・アクションは義務なのか。本来の総合計画は町が何をやるというものだと思うが、
- ・町は自治会に何を求めているか？それを総合計画にはっきり謳うべき。

【福祉部会】

テーマ①：重点プロジェクトの内容について

〈良い点〉

- ・町民が主役となる「支え合う場」が中心にあるのは良い。
- ・内容③の「包括的な支援体制」は、問題が複雑化しているケースが多いため、今後さらに重要となる。
- ・①から③まで、全体的に悪い点はない。

〈悪い点〉

- ・福祉団体の下に関係団体の例示があるが、障がい者団体などの表記がない。支援しつつ、支援される関係性の団体もあるので、そういった落とし込みを検討しては。
- ・内容②には「まちぐるみ」の支援体制という記載がある。このプロジェクトを具現化するには「まちぐるみ」についてもう少し具体的に説明や方法などの表現が必要なのでは。
- ・例えば、保育の後のくる学校など、部会を超えたつながりも必要なのでは。
- ・イメージ図をみると、行政、福祉団体と関係機関が支える構図となっているが、少子高齢化や担い手不足によって、その支える柱が細くなっていくことが想定される。このプロジェクトは12年後のイメージだと思うが、それは問題ないのか。
- ・（文章化はしにくいとは思いますが）支える項目など、取捨選択をしていくことも考えられる。

テーマ②：重点プロジェクトの推進に向けたアクション

- ・子供を主体で公園などをフィールドに活動する playpark というイベントを実施している。近所の高齢者も（随時で）参加するなど、交流の場になっている。
- ・コミスクで、その小学校エリア内にひまわりの種を配り、植栽のイベントを行った。交流に「参加したいが遠慮している」方も多く、効果的だと感じた。
- ・療育病院では、年に一度療育祭を開催しており、地域も含めた交流の場となっている。

【経済部会】

テーマ①：重点プロジェクトの内容について

〈良い点〉

- ・プロジェクトの内容が夢物語ではなく、現実的で実現可能な内容になっている。
- ・農業・観光・商業など各産業と観光が連動している点がしっかり打ち出されており良い。
- ・ふるさと住民登録制度など具体的な制度を見据えながらプロジェクトが書かれている点が良い。その活用にあたっては、東京など各地にある美幌ゆかりのコミュニティと連携して取り組みを広げていくといいのではないか。

〈悪い点〉

- ・農村ツーリズムについて、受け入れ体制が整っておらず、農家体験なども前向きな農家がいる一方で消極的な農家もいる。やる気のある人だけの属人的な取り組みになりやすく、その人が引退すると続かなくなるという継続性の課題がある。
- ・各産業をつなぐ「コーディネーター役が誰なのか」が明確でない。
- ・農業体験・宿泊体験など、農業だけでなく商業も含めて考える必要がある。教育旅行や企業研修といった、まとまった来訪者の受け入れ方法も見据えるべきではないか。
- ・取り組みが個人的・属人的になりやすいため、組織的・継続的な仕組みが求められる。

テーマ②：重点プロジェクトの推進に向けたアクション

- ・みどりの村のリニューアルを機に、そこを拠点とした農業体験・キャンプなどの滞在型体験ができる取り組みがあるといい。
- ・朝採れアスパラを農家で収穫してそのまま食べるような朝ツアーができれば面白い。
- ・博物館は見るだけでは物足りないが、学芸員が解説しながら案内すると非常に面白い。町民にもコアなファンがいるほど。既存施設をより魅力的に見せる仕組みが必要。

＜観光マネジメント組織の形成＞

- ・上記のような体験ツアーのコーディネートや商品造成を担う、マネジメント組織（DMO的な存在）があるといい。農家や学芸員をつなぎ、ツアーを設計・運営する中心的な役割が求められている。

＜美幌ブランド・地産地消＞

- ・美幌産アスパラが町民の口になかなか入らない現状がある。買いにくい仕組みを改善する工夫が必要。
- ・美幌町は農業のまちである。農業への誇りと愛着を大切にしていきたい。

【建設部会】

テーマ①：重点プロジェクトの内容について

〈良い点〉

- ・外から来る人のにぎわいが伝わる。
- ・人と人の出会い・助け合いが生まれる。
- ・人が集い、交流の場づくりが進む。
- ・民間活力を活かし都市機能を集約できる。
- ・人口減少に対応したコンパクトシティにより生活効率が向上する。
- ・住宅リフォーム制度が充実し多くの住民が活用している。
- ・歩道整備が整っており住みやすい環境にある。
- ・災害に強いまちづくりが進んでいる。

〈悪い点〉

- ・人の密集や騒音による住環境上の問題が生じる恐れがある。
- ・行政と民間の関係が悪化するリスクがある。
- ・郊外住民のコンパクトシティに対する不公平感がある。
- ・秋祭り・和牛祭り以外に世代を超えて主体的に関われるイベントが少ない。
- ・宿泊施設が不足しており観光・交流の受け入れ体制が弱い。
- ・コンパクトシティの取り組みを知らない・関心を持ってない住民が多い。
- ・情報発信・意見交換の場が具体的に示されていない。
- ・コンパクトシティは概ね達成済みであり、人口減少の根本原因への対策が必要。

テーマ②：重点プロジェクトの推進に向けたアクション

- ・テーマ別のパブリックコメントや町民会議を定期的を開催する。
- ・各班・地域の意見を集約し、町民主体でまちづくりを推進する。
- ・美幌高校生によるイベント企画を町と町民が協力してバックアップする。
- ・高校生のアイデアや考えを実際のまちづくりに反映させる。
- ・若者から高齢者へのスマホ・LINE 活用講座を老人クラブ等で実施する。
- ・町内・近隣町との合同運動会など世代・地域を越えた対抗イベントを開催する。
- ・小学校の運動会に保護者が参加できる仕組みをつくる。
- ・毎月・毎週いずれかの場所でイベントを開催する。
- ・国道を閉鎖して中心市街地でイベントを実施する。
- ・冬まつりでの雪像づくり、町内会ごとの盆踊りなど季節行事を充実させる。
- ・温泉の掘削・整備を検討する。
- ・蔵書量の多い図書館を整備する。
- ・誰もが主催・参加しやすいイベントの仕組みをつくる。
- ・知らない人・興味のない人にも届く情報発信を工夫する。

【教育部会】

テーマ①：重点プロジェクトの内容について

〈良い点〉

- ・町民だけでなく、外国人との共生はよいと思う。（多文化共生）
- ・体験型の学びは貴重。子どもたちの関心を得られそう。
- ・個のスタイルに合わせた学びは現代にとって重要である。
- ・生涯学習の充実はよいと思う。
- ・美幌町は学習できる場（機会）が多いと思う。
- ・「生きた教材」について、人との出会いは人生を大きく変えるきっかけにもなるのでよいと思う。また、教材となる地域資源の発掘は、新たな町の魅力発見にもつながるので楽しみ。

〈悪い点〉

- ・義務教育学校完成後、小中一貫教育は進むが、美幌高校はどうしていくのか。
- ・社会を生き抜くための取り組みをもう少し具体的に。
- ・体験型学習だけでなく、探究型学習も取り入れてほしい。
- ・学習できる場（機会）が多いのだから、もっと PR を。
- ・人に教えたいと思う人いるが、教える場は少ないのでは。
- ・もっと深く学べる場所がないと思う。町外流出（進学）も仕方がない。
- ・個のスタイルと言いながら、不登校の生徒にどのような対応をするのか。いろんな取組をしていると思うので、もっと外部に PR しては？

テーマ②：重点プロジェクトの推進に向けたアクション

- ・外国人と町民とのイベント（ビールパーティーとか）を開催して、交流の場を作れるのでは。
 - ・農業に目を向けてもらうため、農家主導で農作物の収穫体験を実施できないか。
 - ・社会奨励員（社会教育を教えるボランティア）を短期間で募集すれば、いろんな人材を確保できるのでは。
 - ・1人1人が得意なことを活かし、地域のサポーターに。
 - ・子ども食堂にフリーの塾を併設できるのでは。大学生のボランティアや学校の放課後学習などいろんな取組をしているが、いつでも学習できる機会をもっと増やすことできるかも。
-
- ・ふるさと祭りの出展者が不足しているなか、高校生が出店できる、しやすくなる仕組みを。